

平成 30 年度第 2 回宗像市歴史的風致維持向上計画推進協議会 議事録

平成 31 年 3 月 14 日（木）10：30～12：00

海の道むなかた館 1 階 講義室

■出席者

委 員	出欠	委 員	出欠	委 員	出欠
黒瀬 重幸	出	土屋 潤	出	平松 秋子	出
○大方 優子	出	壹岐 貴寿	出	河口 靖志	欠
西谷 正	出	矢原 吉房	欠	野上 和孝	出
山野 善郎	出	森 弘子	欠	松井 陽子	欠

印は会長、○印は副会長

第 1 号議案 宗像市歴史的風致維持向上計画の変更について

異議なし。原案通り可決する。

第 2 号議案 宗像市歴史的風致維持向上計画の進捗評価について

原案通りとし、別紙のとおりコメントを付す。

評価軸 -1「重点区域における歴史的風致の維持及び向上に関する取組み(都市計画法)」

野上：定性的・定量的評価に「観光施設の誘導を図った」と記載があるが、具体的な内容
を示していただきたい。

→土地利用のあり方について都市計画法に基づく地区計画制度等を活用して、「海の
道むなかた館」や「道の駅むなかた」などの観光施設の誘導を図っている。

評価軸 -2「重点区域における歴史的風致の維持及び向上に関する取組み(景観法)」

山野：重点区域周辺において行われる施設整備等により良好な景観が阻害されないよう、
その対応方針が重要と考えるが、現在、どのように関係機関と調整を進めておられ
るのか。

→良好な景観の保全は重要な課題であると認識している。特に世界遺産緩衝地帯の
景観の保全について、福岡県や福津市との 3 者協議を行っているところであり、そ
の結果を尊重しながら、対応していきたい。

評価軸 -2「歴史的風致形成建造物等整備事業」

平松：八所宮の本殿・拝殿や木造狛犬に「青かび」の発生が散見された。市指定文化財で
あるが、対策は取られているのか。

→現状を調査し、専門家や所有者等との協議のうえ、対策を取りたいと考えている。

評価軸 -3「歴史的風致等景観整備事業」

野上：道路誘導サインについて、表示のみ変えて、色は変えていないのか。

→サインの色彩については、宗像市サイン計画に基づき板面は緑色、文字は白、ポールは焦げ茶色に塗り替えている。

評価軸 -5「まちなみ環境整備事業」

野上：市単独と記載しているが、交付金事業は実施しないのか。

→支援事業の活用の可能性を検討している。一方で、歴史的建造物の修景等については個人の財産となるため、所有者の意向を尊重しながら慎重に進めていきたい。

評価軸 -8「歴史文化基本構想策定事業」

山野：文化財の保存活用について、指定文化財に対する支援と併せて、特に未指定建造物の指定に向けた取組みとして、登録制のようなリストアップを検討して頂きたい。

→未指定の文化財の保存活用に向けて、現在、全体像を把握するための調査を行っている。調査終了後に建造物が立地している区域を、市全域とするのか、本計画における区域とするのか、どのような基準に基づきリストアップするのか、などを検討したい。

野上：宗像市歴史文化基本構想（仮称）について、平成31年度以降に策定予定とある。策定されることで新たな支援が得られることから、早期に策定することが望ましいと考えるが、現在の取組み状況はどうなっているのか。

→平成30年6月の文化財保護法改正により、市町村は文化財の保存・活用に関する総合的な計画である「文化財保存活用地域計画」を作成し、国の認定を申請できるようになった。従来の「歴史文化基本構想」は本計画に移行、法定化されることから、本市では本計画の策定に着手することとし、昨年度から県の文化財部局と協議を行うなど、取組みを行っている。

評価軸 -9「歴史文化資源ガイダンス拠点整備事業」

山野：事業の進捗状況はどうなっているのか。

→現在、担当部局が関係機関との調整や実施方法についての検討を行っている。具体的な内容を提示できるようになり次第、報告させていただく。

評価軸 -12「観光受入環境整備事業」

野上：「外国人来訪者向けの観光案内機能を拡充し、受入体制を強化した」とあるが、具体的な内容をご説明いただきたい。

→今年度は外国人来訪者に対する事業として、パンフレットの作成やアプリの多言

語化を行うことで、観光案内機能を拡充し、受入体制を強化した。

壹岐：宗像大社は、日頃から宗像歴史観光ボランティアをはじめ、多数の皆様に大変お世話になっているところである。外国人参拝者数が増加している現状があるが、「宗像観光ボランティア」には、英語などの外国語対応が可能な方は在籍しておられるのか。

→「宗像歴史観光ボランティア」では外国語対応は行っていないが、英語、韓国語、中国語による対応が可能な「宗像通訳サポート」という団体がある。利用する場合は事前予約が必要。

壹岐：東アジアからの来訪者が増加していると感じている。中国語や韓国語などの対応も必要と考えており、宗像大社も一緒に取組みたい。そこで、東アジアからの来訪者にフォーカスした受入環境の整備状況や今後の予定があればお聞かせいただきたい。

→道の駅むなかたの宗像観光情報コーナーでは、英語・中国語・韓国語・タイ語・ロシア語の5ヶ国語による多言語映像通訳サービスを行っている。引き続き、サービスの拡大を図っていきたい。

評価軸 -13「地域活性化支援事業」

野上：「空き店舗数 平成29年度14件、平成30年度11件」とあり、3件減っているが、これらの店舗はどうなったのか。

→いずれも「宗像市赤間宿空き店舗新規利用支援事業補助金」に基づく支援を受けて、新たな店舗として活用されている。

評価軸 -1「その他（効果等）」

野上：住民意識調査の結果では、「関心がない」、「愛着がない」という回答があるが、原因等の分析は行っているのか。

→原因等の調査の必要性は認識していることから、今後具体的方法等を検討したい。

大方：住民意識調査の結果については、一部の結果から考察するより、多くの調査結果を総合的にみて考察の方が適当ではないかと考える。次年度は調査結果の対象範囲について検討をお願いしたい。

→承知しました。

計画全体

野上：世界遺産構成資産を有する福津市との連携や協力等に関して、どのような取組みが行われているのか。

→福岡県・福津市・宗像市・宗像大社の4者による「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会」において、資産及び緩衝地帯の保存管理及び公開活用に

関する方針の意思決定や調整を行っているところである。本計画に掲げる事業についても必要に応じて同協議会との調整や協議を行う予定である。

山野：本計画を進捗管理する上で、例えば定量的な評価に関しては事業の全体量が分かった上で進捗率により管理することになると思うが、関係機関等との調整の中で、次年度以降の全体量は見えてきているのか。

→ハード事業については、「歴史的風致形成建造物等整備事業」の一環である八所宮修復事業は3ヵ年計画、「歴史的風致等景観整備事業」の一環である登録銘板及び誘導サイン整備事業は5ヵ年計画、鎮国寺周辺整備は2ヵ年計画、宗像大社辺津宮周囲無電柱化事業は5ヵ年計画を作成し、進めていくこととしている。一方、ソフト事業の全体量は確定していないが、その効果を把握できよう意識調査等の手法を検討していきたい。

黒瀬：本計画の進捗管理を行う上で、可能な範囲で定性的、定量的な評価指標を次年度以降は示して頂きたい。

→定性的もしくは定量的な評価が可能となるような手法について、今後検討していきたい。